

横浜港の概要

■横浜港の歴史

横浜港は、幕末の1859年に開港して以来、わが国を代表する港として、整備が進められてきました。そして横浜という都市もまた、こうした港とともに発展してきたといえます。

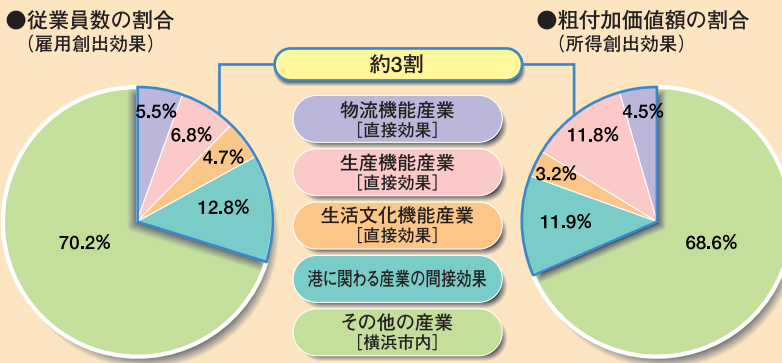
■横浜港と地域経済

横浜港が横浜市の地域経済に及ぼす経済効果は、直接効果だけで市全体の雇用の17.0%（約23.7万人）、所得の19.5%（約2.4兆円）に及んでいます。

これに間接的な効果も加えると、横浜市内の雇用の29.9%（約41.5万人）、所得の31.4%（約3.8兆円）が横浜港に関係しており、横浜市の経済発展に横浜港が大きな役割を果たしています。

※横浜市が産業連関表（平成7年）を用いて行った推計による

横浜港の雇用創出効果と所得創出効果



■横浜港年表

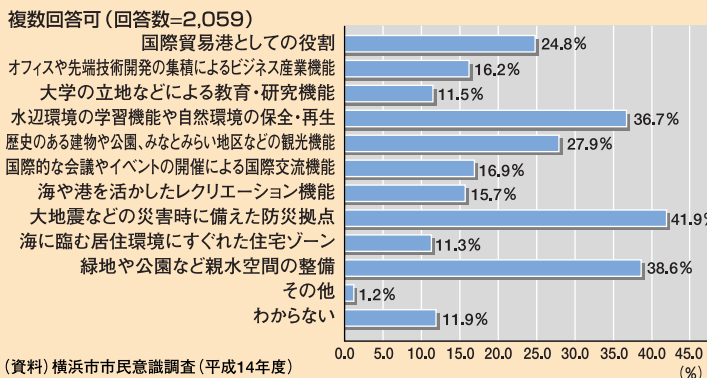
1853年（嘉永6年）	米国ペリー提督浦賀来航
1858年（安政5年）	日米修好通商条約締結
1859年（安政6年）	横浜開港
1864年（元治元年）	東波止場完成
1894年（明治27年）	大さん橋完成
1911年（明治44年）	新港ふ頭埋立完成
1917年（大正6年）	新港ふ頭陸上施設完成
1923年（大正12年）	関東大震災
1930年（昭和5年）	山下公園完成
1936年（昭和11年）	臨海工業地帯（恵比須町・宝町・大黒町）完成
1945年（昭和20年）	第二次世界大戦終戦
1951年（昭和26年）	横浜市、港湾管理者となる
1954年（昭和29年）	高島3号さん橋、出田町ふ頭完成
1961年（昭和36年）	大黒町埋立完成
1963年（昭和38年）	山下ふ頭完成 根岸湾第一期埋立完成
1966年（昭和41年）	本牧ふ頭関連運用地埋立完成
1968年（昭和43年）	フルコンテナ船横浜港初入港
1974年（昭和49年）	金沢木材ふ頭完成
1977年（昭和52年）	金沢地先埋立完成
1984年（昭和59年）	大黒ふ頭第一期埋立完成
1989年（平成元年）	横浜市政100周年・開港130周年 横浜ベイブリッジ開通
1994年（平成6年）	鶴見つばさ橋開通
1996年（平成8年）	横浜ベイサイドマリーナ第一期供用開始 横浜港流通センター（Y-CC）完成
1999年（平成11年）	横浜開港140周年 横浜ワールドポーターズ完成
2001年（平成13年）	南本牧ふ頭供用開始
2002年（平成14年）	赤レンガ倉庫オープン 大さん橋国際客船ターミナルオープン

（資料）横浜港史

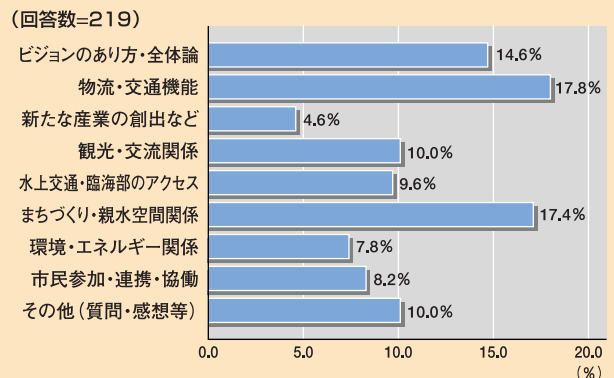
■横浜港と市民意識

- 横浜市民の7割以上が、「横浜」と聞いて、「港」「海」「かもめ」「船」などを思い浮かべます（「平成9年度横浜市民意識調査」より）。
- 横浜臨海部に必要な役割・機能として、「大地震などの災害時に備えた防災拠点」「緑地や公園など親水空間の整備」「水辺環境の学習機能や自然環境の保全・再生」にそれぞれ約4割の回答が集まっています（「平成14年度横浜市民意識調査」）。
- 平成14年12月に開催した横浜港長期ビジョン・フォーラム来場者の関心が高い横浜港の将来像として3割以上の回答があったのは、「見て触れて楽しめる港」「東アジアのスーパーハブ港」「生態系が再生・維持される港」でした。
- 本ビジョンの策定にあたって行ったパブリック・コメントに寄せられた意見では、「物流・交通機能」や「まちづくり・親水空間関係」が特に多く、これらの分野で高い関心があることがうかがえました。

横浜臨海部に必要な役割・機能



横浜港長期ビジョンに寄せられた意見の延べ件数の割合



■産業連関表…ある財貨やサービスが最終需要に至るまでに、それぞれの産業の間でどのような取引過程を経て生産されたかが表形式でまとめられたもので、生産額や投資額などの増加に対して、どの程度新たな生産が誘発されるかを推計することができるもの。